

Weekly Michael's News

<今週の聖句>

2018年9月25日発行 No.80

『イエスは座り、十二人を呼び寄せて言われた。「いちばん先になりたい者は、すべての人の後になり、すべての人に仕える者になりなさい。』」
(マルコによる福音書 第9章 35節)

<半世紀の歩みとつながりに感謝しつつ…。神戸国際大学創立 50 周年記念式典を挙行!! >

先週の土曜日 22 日は、我らが神戸国際大学にとって忘れる事のできない大切な時となりました。創立 50 周年記念式典が、同じ六甲アイランドに位置する神戸ベイシェラトンホテルを会場に執り行われました!! 当日は、来賓として兵庫県知事や神戸市長、私学教育振興会会長など教育関係者、また教会関係でも神戸教区主教が、そして他にも多くの理事・評議員約 300 名が一堂に会し、この大学の 50 歳の誕生日を盛大にお祝いしました。式典の第一部は、この大学がキリスト教を土台としている事から礼拝形式で行われました(司式担当の私は、緊張で膝が震えました…汗)。礼拝の中心で説教を担当された前田理事長は、神戸国際大学の 50 年を踏まえつつ、私たちの向かう先を明確に指し示されました(裏面にメッセージ要約が記載されています)。その後の教育講演(これがまた内容濃かった!!ぜひFD・SD研修に来て欲しい!!)や祝賀会も時間を忘れるほどの充実ぶりで、50 周年という貴重な喜びの瞬間を皆で分かち合う事ができました。この日に向けて数えきれない程の会議や準備を重ねてこられた関係者の皆様に、またこの時まで KIU を支え下さった皆様に心から感謝いたします!!



当日は教職員が一丸となって対応



式典第一部は記念礼拝



歴史とビジョンを示す前田理事長

<新しい歩みを祝って!! 2018年9月度 学位記授与式(卒業式) & 国際別科修了式!! >

創立記念の2日前、20日の木曜日には9月度(秋)の学位記授与式(卒業式)と国際別科の修了式がチャペルで行われました!! 約40名が卒業&終了を迎えて、新しい歩みを始めました。下村学長は、奨励の中でこの大学での学びを再確認され「どこへ出て行ってもこの学びが一人ひとりを支える大きな力になる」と励ましの言葉を掛けられました。当日は生憎の雨模様でしたが、祝賀会が終わる頃には、南の空に青空が見えており、雲の間から差す光が新しい歩みを始める学生の未来を示しているようでした。



優しい言葉で喜びと責任を諭される学長

＜先週のメッセージ＞

※ここでは実際に話されたお話の要約を掲載しています

9月22日（土）テーマ：「建学の精神と共に歩んだ50年」

前田 次郎（理事長）

本日は学校法人八代学院 神戸国際大学創立50周年を迎えるにあたり、来賓をはじめ多くの皆様が大変ご多忙なスケジュールを割愛し、この喜びの式典にご隣席下さった事に心から御礼申し上げます。本日はしばらくの間、共に祈り、共に賛美をささげ、共に神の言葉に耳を傾けたいと思う。

大学が設立された1960年代、我が国は高度経済成長の始まりであり、東京オリンピックなどが開催されたが、その一方で国際間の対立が深まった時代でもあった。特に青少年の間ではフーテン族やヒッピー族、そして学生運動などが起こり、大きな時代のうねりに対抗した。

そんな中、創設者ミカエル八代斌助先生は、現在の附属高等学校がある垂水の学が丘に、当時教会に集っていた青年たちを連れて毎日曜日山に登られた。自分の周囲にいる手近な若者に注目し、自ら率先してモッコを担ぎ、ツルハシを持ち、汗を垂らして働かれた。そして、日が沈めば青年たちと夕食を作り、ランプの明かりの下で青年たちと夜遅くまで話された。そこには先生の祈りと信念「青年たちがどんな環境に置かれても自分を見失うことなく自分の足でしっかり立って欲しい」との祈りがあった。自分を取り巻く少数の若者達を、学力や財力で選別されなかった。このような先生の姿勢が周囲の人々の心を打ち、1963年に八代学院高等学校の設立へとつながっていく。起工式の時、先生は祭壇の前で靴を脱がれた。この不思議な動作に、その場にいた皆は驚かされた。聖書では「靴」は占領、所有、すなわちこの学校を建てようとする土地は俺のものだ、誰のものでもない。という意味がある。しかし、先生は土地も建物も林も全てのものは神のものであり、それをお借りして私たちは大切な青年の育成に参加する、この先生の信仰と敬虔さが私たちの学校を守り通してきたのだと思う。

この高等学校の設立から2年後、1968年に大学が誕生する。経済的には豊かな学校ではなかったが、ただ一つ私たちが誇りとしていることがある。ミッションスクールは、母体が外国にあるケースが多い。その母体が良しとすれば莫大な資金が援助される。しかし、私たちの学校は日本人の信徒の献金と、これに賛同された数知れない賛同者の協力によって建てられた学校である。その点では誇るべき貴重な歴史であると思う。

1992年4月には、八代学院大学から神戸国際大学に学名を変更し、今日を迎えたが卒業生は1万数千名にのぼり、彼らは社会のあらゆる場所で活躍している。大企業、中小企業、公務員、自営業と多士済々だが、私が心強く感謝している事は企業の大小に関わらず「お前がそこにはなくては困る」という存在の強さが指摘される事だ。私はこれら全ての営みの底に創設者八代先生が遺して下さった「神を畏れ、人を恐れず、人に仕えよ」という建学の精神が脈々と生きていることを確信する。このようにして私たちは50年を歩んできた。

さて、私たちはこの先の50年を如何に歩むのだろうか？ 私たちは将来の教育のあり方を考え、我田引水に陥らず、未来の教育のあり方について、しっかり見つめる必要がある。ここでは、我が大学の生命である建学の精神「神を畏れ、人を恐れず、人に仕える」を日常化して歩むことを念願する。言葉を変えれば自分の隣人に「優しい言葉、癒しの言葉、励ましの言葉」をかけつつ日々を送ること。そのような言葉をかけられる人は、次の聖書の言葉を自ら生きる事で実現する。「あなたがたの中でいちばん偉い人は、いちばん若い者ようになり、上に立つ人は・仕える者ようになりなさい」（ルカ22：26）

2001年、私は学校から八代先生の「胸像」を作り「碑文」の文章を考えなさいと命じられその締めくくりの言葉に突き当たった。私が八代先生の本や手紙、また多くの写真を見ていると一つの事に気づかされた。先生はどんな場合でも「自分を語らずイエス・キリストを指し示められた」という事である。これから50年、学生も、教職員も、同窓生も、保護者も、全ての者がイエス・キリストを指し示す歩みを共に続けていきたいと願う。（文責：野間 光顕）